

機械器具（74）医薬品注入器
手動式圧注入調節装置 13100001 一般医療機器

e s 加圧バッグ C P I

【禁忌・禁止】

- 300mmHg以上の加圧をしないこと。[故障の原因となる]
- 高圧で長時間の継続的な加圧をしないこと。[破裂や破損の恐れがある]
- 付属の送気球以外（電動ポンプ、施設内配管等）で加圧をしないこと。[破裂や破損の恐れがある]

【形状・構造及び原理等】

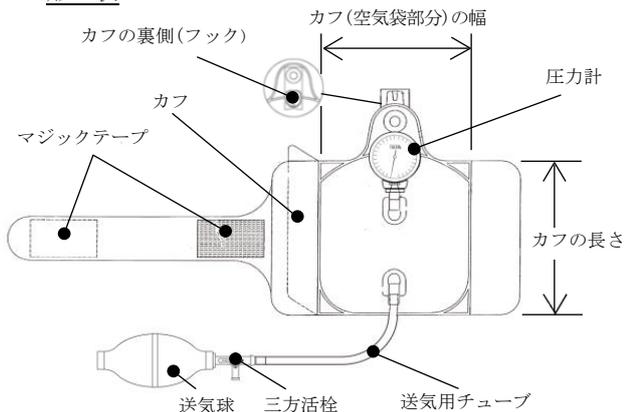
本品は、輸液用ソフトバッグを圧迫するカフ部、圧力計、圧力を発生させる送気球及び三方活栓を有する送気用チューブより構成される。

本品は、ソフトバッグの容量により種類がある。

適用ソフトバッグの容量	バッグの取り付け方法
500mL	巻きつけ
1000mL	
2000mL	

1. 形状及び寸法

形状



寸法等

容量	カフの長さ	カフの幅	チューブの長さ	重量
500mL	約 21cm	約 19cm	約 33.5cm	約 350g
1000mL	約 32cm	約 20cm		約 500g
2000mL	約 35cm	約 34cm		約 550g

【使用目的又は効果】

輸液用ソフトバッグに外から一定圧を加えることによって、輸液の点滴静注の速度を調整するバッグをいう。圧力は、手動（送気球）で発生させる。

【使用方法等】

- カフを広げ、輸液用ソフトバッグをカフのフックに取り付ける。
- カフをバッグに巻き付け、カフ部のマジックテープで固定する。
- 本品のカフ部をガートル棒等に吊り下げる。
- 輸液用ソフトバッグを輸液用ソフトバッグの添付文書に従って、患者へ接続する。
- 三方活栓のレバーを排気口へ向け排気弁を閉じ、送気球からカフ部へ送気できるように切り替える。

- 送気球を繰り返し圧迫して、カフ部を輸液用ソフトバッグの輸液に必要なまで膨張させる。
- カフの圧力が不足している場合は、さらに送気球を圧迫して圧を高める。
- カフの圧力を固定する場合は、三方活栓のレバーをチューブ側へ回転させる。
- カフの圧力を低下させる場合は、三方活栓のレバーを送気球側へ回転させ排気させる。

【使用上の注意】

<重要な基本的注意>

- 取り扱いに習熟した者以外は本品を取り扱わないこと。
- 併用する輸液の添付文書を確認後、使用すること。
- 使用前に本品全体に異常が無いことを確認すること。本品に傷・異物・劣化などを発見した場合は、使用しないこと。[正常な加圧ができなくなる恐れがある]
- カフに輸液用ソフトバッグを取り付ける時は、カフの空気が抜けていることを確認すること。
- 長時間の加圧を繰り返すと製品寿命の短縮の原因となるので定期的に製品の状態を確認すること。
- 本品を改造しないこと。
- 万一製品に傷・異物・劣化などを発見した場合は、使用しないこと。
- 衝撃・落下を避けて使用すること。
- 刃物等鋭利なものに接触させないこと。[切断等により、加圧できない恐れがある]

【保管方法及び有効期間等】

- 保管方法
水濡れに注意し、直射日光及び高温多湿を避けて保管してください。

【保守・点検に係る事項】

- 汚れを落とすには、70%の消毒用アルコールで湿らせた布で、圧力計部分を避けてカフ、送気用チューブ、送気球の表面を拭いてください。布をアルコールに浸しすぎると圧力計内へアルコールが入る恐れがあるので、適量で湿らせるようにしてください。拭いた後は数分間室温で乾かしてください。保管する際は、全体が完全に乾燥していることを確認してください。
- 血液が付着した場合は、速やかに上記の方法で拭き取ってください。
- 本製品は薬液等に浸さないでください。
- 本品を保管する際は、本体及び送気用チューブをきつく折り曲げないでください。
- 長期間使用しない場合は、三方活栓を閉じてカフへ送気した時に圧力計の指針が動くことを定期的に確認してください。
- 本品は、取り扱い方法により劣化具合が異なるため、使用前に状態を確認し、劣化・破損等が見られた場合は、使用を中止してください。

【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称等】

製造販売業者：eastsidemed株式会社

東京都文京区本郷3-24-5

TEL 03-3815-0056 FAX 03-3818-4085